



2月29日(月)

## あなたの主なる神を愛せ

聖書朗読 申命記13:1~18

「先生。律法の中で、大切な戒めはどれですか。」そこで、イエスは彼に言われた。『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』

マタイ 22:36~37

人々がイエス様にどの戒めが一番大切かと尋ねたとき、イエス様は申命記の中でモーセが語った三つの教えを引き合いに出しながら、一番大切な戒めについて語られました。

最初の教えは邪悪な預言者に関してです。その預言者は、人々をそそのかして主ではなく他の神へ仕えさせようとし、宗教的指導者は、しばしば多くの人々を迷わせます。モーセは人々にそういう者の言うことを聞かないようにと警告しました。これ以上大切なことはありません。

二番目の教えは、家族や親友がひそかにあなたをそそのかして、他の神に仕えようとさせるかもしれないことです。これら身近な人々は、私たちに最も影響を与えます。仲間からのプレッシャーは抗うことが難しいものです。モーセはこういった人々の話を聞かないようにとっています。

最後の教えは、町の住民すべてを迷わせてほかの神に従おうとさせるよこしまな者たちについてです。世論が変われば文化が変わります。世間全体に反対することは非常に困難ですが、モーセはそんな場合にも、耳を貸さないようにと警告しています。

私たちが主から引き離そうとする人々について、よく考えなければなりません。イエス様によれば、主なる神様を愛することよりも大切なことはありません。

讚美歌 第二編 173

祈り 親愛なる神様。私たちの心と魂のすべてをもってあなたを愛します。あなたから離そうとする者たちを私たちが見分けて、抵抗することができるように助けてください。

イエス様の御名において。アーメン。

ハロルド・シャンク

ウエストバージニア州 ヴィエナ

3月1日(火)

## 主に信頼する

聖書朗読 ヨシュア 6：1～11

主に信頼する人々はシオンの山のようだ。ゆるぐことなく、とこしえにながらえる。

詩編 125：1

主がイスラエルの人々にその戦略を指図したとき、イスラエルの人たちは、この戦略は狂っていると思ったことでしょう。エリコの町を陥落させるために、主は聖なる行進を沈黙して行うように導きました。この行進の進め方はイスラエルの世界では、礼拝の行為としてみなされています(ネヘミヤ記12：41～43)。しかし、戦闘のしかたとしては、冗談にしかありません。この行進を見たエリコの市民たちが笑いすぎて死んでくれればよいのですが、さもなくば弓矢の的となり殺されてしまいます。

信仰の契約に基づき、主はエリコの町の城壁の周りをぐるっと戦士たちに囲ませました。そして時が来たとき、戦士たちは叫びました。すると主がその城壁を崩したのです。イスラエルの民ではなく、主が壁を崩されたのです。

それは尋常ではなく、ばかげた、論理的でない戦略でした。こんな戦略が成功するなんて、千年経っても千回その町を訪れてみても、とうてい信じられません。干上がったヨルダン川を歩くまでは、信じられないでしょう。

主がエジプトで水を血に変えたり、荒れ野で岩から水を噴出させたりしたという話を聞くまでは信じられないでしょう。

神様こそがエリコを征服なさった方です。ヨシュアはエリコの戦闘では闘っていません。彼は主の計画を信じ、イスラエルは主を信じて従ったのです。

讃美歌 267

祈り 親愛なる主よ。私たちが壁につきあたるときには助けてください。あなたを信頼する力を与え、自分たちの手ではなく、あなたの御手の中に私たちの人生をゆだねることができるようにしてください。

イエス様の御名のもとに。アーメン。

グレン・ペンバートン  
テキサス州 アビリン

3月2日(水)

## 誰か家にいませんか？

聖書朗読 士師記16：1～9

そこで、デリラはサムソンに言った。「あなたの強い力はどこにあるのですか。どうすればあなたを縛って苦しめることができるのでしょうか。どうか私に教えてください。」

士師記 16：6

この話を讀んだとき、私はサムソンをゆすって大声で「サムソン、自分のやっていることがわかっているの？」と言いたいと思いました。サムソンだけではありません。アダムとエバがヘビの言うことに耳を傾けているときや、ダビデがパテ・シェバに欲情しているときにこう叫びたいと思いました。

しかし、しばらくのあいだ考えてみました。アダムとエバは人類の始祖となりましたが、神様は私たちの手本として誘惑に負けやすい人々を選ばれたのでしょうか？ サムソンは生まれる前からその役目のための用意がなされていました。主の霊がサムソンを揺り動かし始めたのです。(士師記13：25)。ダビデは、神様に任命された王であり、神様が心から愛される人でした。

こうしてみると、彼らのことを正そうとする前に、私は私自身の人生について考える必要があるかもしれません。神様によって任命された人々がこんなにもたやすく失敗してしまうのなら、もし私と同じ状態におかれたらどうするだろうか。日々の誘惑に私はどう対処しているだろうか。おそらく、「自分のやっていることがわかっているの？」と問わなければならないのは私自身ではないだろうか？

あなたはどうか。自分のやっていることがわかっていますか。神様の恵みについて考えていますか。それとも、今すぐ自分が欲しい物について考えていますか。神様には、私たちの間違った思考からでた行動でも、勝利に変化させる力があります。

讚美歌 312

祈り 親愛なる主よ。私が過ちを犯したときに、赦してくださりありがとうございました。あなたを通して私は邪悪なヘビに打ち勝つことができました。

イエス様の御名において。アーメン。

ジェス・ピーターソン  
テキサス州 ラボック

3月3日(木)

## 世を友とする愚かさ

聖書朗読 士師記 16:10~22

貞操のない人たち。世を愛することは神に敵することであることがわからないのですか。世の友となりたいと思ったら、その人は自分を神の敵としているのです。

ヤコブ 4:4

ハミルトンは、「罪はあなたが行きたいところより、さらに遠くにあなたを連れて行く」と書きました。サムソンは神様に自分の人生を任せるよりも、自身の快樂を選びました。彼は小さな楽しみだけが欲しかったのです。神様はご自身の子どもたちにこう警告なさっています。『ですから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけなさい。』(Iコリント 10:12)。

サムソンの驚くほどの強さは、彼の弱い性格にはそぐいません。サムソンの一番の弱点は、偶像崇拜の国の女たちを愛したことでした。サムソンはデリラを愛することを選びました。彼女はペリシテ人の誘惑する女でスパイでした。銀の詰まった袋一つでサムソンを裏切り、彼を破滅のわなにはめしました。デリラはいわば士師記の中のユダです。

神様はサムソンを御心から育てられ、サムソンの名前はヘブル人中でも信仰のある者としてあげられています。サムソンが主の恵みを楽しみながら栄光の中に暮らすことは決してありませんでした。

私たちは聖なる生活をし、自分たちを誘惑から遠ざけるようにとされています。神様の家族たちを友とすれば、誘惑を避ける助けとなるでしょう。逆に、愚かな友を持てば、灰皿へと導かれてしまいかねません。

讚美歌 第二編 182

祈り 天のお父様。私たちがあなたとの信頼関係に気づくことができるように、私たちの目を開いてください。誘惑に負けることなく、悪から私たちを遠ざけてください。

イエス様の御名において祈ります。アーメン。

キャロル・ローデス  
コロラド州 パブロ

3月4日(金)

## 責 任 感

聖書朗読 ルツ 1:6~22

あなたを捨て、あなたから別れて帰るように、私にしむけないでください。あなたの行かれるところへ私も行き、あなたの住まわれる所に私も住みます。あなたの民は私の民、あなたの神は私の神です。あなたの死なれる所で私は死に、そこに葬られたいのです。  
ルツ 1:16:17

責任感という言葉は、実際に聖書の中で使われてはいないでしょうが、しかしこの言葉の意味は、聖書のページの隅々に織り込まれています。ルツが義母のナオミに対して行った献身がその良い例です。嫁としての責任感から、ルツは自分自身の人生を優先させるという気持ちを捨てました。ルツが自分の意志でそうしたので、神様はそれをご覧になり、彼女が想像できなかったほどのすばらしい将来をくださいました。

ボアズもルツがしたことに関心しました。「高潔な女性」としてのルツの評判によって、彼らは結婚し、最終的には息子を授かることができました。ルツのナオミへの献身は報われたのです。ナオミもまた、彼女が想像できなかった方法をもって恵みを受けました。ベツレヘムの女たちは、ナオミに『あなたを愛し、七人の息子にもまさるあなたの嫁が、その子を産んだのですから。』(ルツ 4:15) と言いました。

ナオミに対してルツがした献身は、キリストにおいて神様が私たちに対して行われた献身を反映するものです。私たちが今までにした想像をはるかに超えるような将来が与えられたのです。イエス様は神様の父親としての責任感の表れなのです。

讚美歌 332

祈り 聖なるお父様。人類と私個人への献身的なお約束に感謝します。責任感をもって私があなたに献身し続けられますように。言葉と行動をもってあなたの栄光を高めることができますように。

あなたの御子を通して祈ります。アーメン。

ジーナ・ゴードン

サウスカロライナ州 ムレルズインレット

3月5日(土)

## 願 え ！

聖書朗読 I列王記 3：5～15

「あなたに何を与えようか。願え。」

I列王記 3：5

アラビアの物語に、ランプの中に閉じ込められた魔法使いの話があります。ランプをこすると煙とともに魔法使いが現れ、「ご主人様の願うことは何でもかなえましょう」と言います。ほとんどの人は、お金、長寿、名声といった利己的なものを願うことでしよう。

しかしながら、神様がソロモンに「あなたに何を与えようか。願え。」と同じような質問をしたときは違いました。ソロモンは若き王として、その任務に圧倒されていました。イスラエルの有力者たちを上から統治するには、助けが必要なことが分かっていたのです。ソロモンは思慮深く神様に指示を求め、善悪を見分け、理解するための心をくださいとお願いしました。これを聞いた神様は喜びました。そしてソロモンに、知恵だけではなく、富と名誉も授けました。ソロモン王の名声は遠方の国々にまで広まり、シェバの女王にまで届きました（I列王記 10：7）。

毎日、新しい日を迎えるたびに、私たちは主に助言を、知恵を、良し悪しを見分ける心を願う機会を与えられているのです。私たちが利己心を捨てて、周囲の人たちに仕えるため助けてくださいと願えば、神様は喜ばれて私たちに必要な道具をくださいます。願いなさい！ あなたの願いは何ですか？

讃美歌 293

祈り 親愛なるお父様。私たちが、あなたのお言葉を実行するために必要な物を日々、あなたに願うことができますように。道を失っている人々にあなたのお言葉を広める力を私たちが授かることができますように。

イエス様の御名において。アーメン。

コニー・シンプキンス・トーマス  
ケンタッキー州 Mt. ワシントン

3月6日(日)

## あなたの傍らに

聖書朗読 I列王記 19:1~9

「起きて、食べなさい。旅はまだ遠いのだから。」

I列王記 19:7

あなたは心身共に消耗し、恐怖から逃れるため、あと自分にできるのは逃げることだけという経験をしたことがありますか。

預言者エリヤは、カルメル山でバアルの預言者たちに勝利しましたが、そのためにいのちをねらわれ、逃亡していました。空は真っ暗になり何年も降らなかったのに大雨が降りました。奇跡を起こした預言者エリヤがイゼベルの脅しを恐れるとは、ちょっと奇妙な気がします。しかし列王記の著者は、エリヤは自分のいのちを救うためにベエル・シェバまで走ったと記録しています。荒野への道に入り、えにしだの木の下で横になり、心身ともに疲れ切ったエリヤは神様に、自分のいのちを取ってくださいと願いました。

エリヤは展望を失ってしまったようにみえます。主はエリヤを叱るかわりに、御使いをエリヤの傍らに送って、四十日と四十夜、パン菓子と水を与えて力をつけさせました。エリヤには、神様が世界を完全に制御なさっておられるとわかりました。神様に仕えるために選ばれる者はエリヤだけではありません。

神様に仕えるということは何という恵みでしょうか。神様は仕える者たちが弱ったり展望をなくしたりしているときには、傍らによりそってくださいなのです。

讚美歌 313

祈り 親愛なる主よ。私たちが恐怖のためにあなたを忘れているときでさえ、あなたは護ってください。子なる私たちへ対する父なるあなたの恵みと思いやりに感謝します。

イエス様の御名において。アーメン。

ジョアン・D・ロング  
テキサス州 ラボック